

特別企画「家のカタチ2016」に「株式会社協栄ハウス」が掲載されました。

O.tone 毎月15日発行
あるた出版ホームページ
<http://www.alter.co.jp/>

あるた出版 検索



1.2階の階段前には、セカンドリビングルーム。ここで遊ぶ子供たちの声は、1階のキッチンにも聞こえるので安心。2.壁から独立したアイランドキッチン。1階全体が見渡せる上、回遊性が高く家事がしやすい。



冬の寒さをどう克服するかは北海道の家づくりの基本。だが、暖かさは光熱費にも直結し、暖房効率だけを重視すれば閉鎖的な間取りになってしまう。そのジレンマへの一つの答えを示すモデルハウスに案内してくれたのは、協栄ハウスの板東達哉さん。扉を開けると、奥にウォークイン式のシューズクロークがある広い玄関に迎えられる。

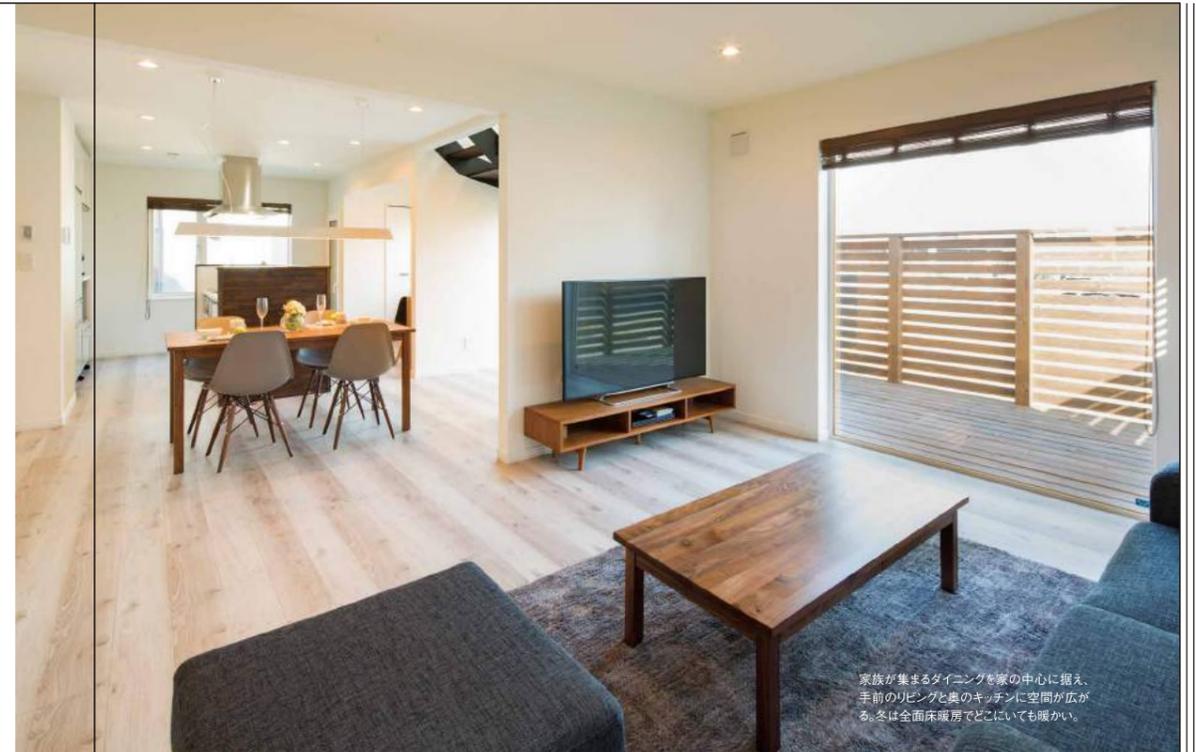
「玄関の土間も、冬は床暖房で暖かいですよ。1階から2階まですべてが床暖房になっていて、どの部屋のどの位置にいても暖かさに差がありません」

家全体の床下を循環しているのは、40〜45度というシャワーと同じくらいの温水。これで室温をムラなく23度くらいに暖めるのが、同社独自の「低温水床暖房」だ。低温水なので、暖めるためのエネルギーは少なく済む。空気熱を利用するヒートポンプや都市ガスを効率よく使うエコジョーズなど、あらゆる熱源に対応可能だ。

床暖房と並んで重要なのが、建物の断熱性能。せつかくの熱を逃がさない工法も、この家の特徴だ。「断熱性能の高さは、夏でも実感していただけます。外の熱気が

室内に伝わりにくく、またほんの少しの間だけ冷房を入れていただければ、適度な涼しさが長時間保たれるんです。冷やし過ぎて体を壊してしまうこともありません」

家全体を床暖房と高断熱で暖かくすれば、暖房器具の配置や部屋単位での気密性を気にする必要がないので、間取りの自由度が増す。この家では、仕切り壁の少ない広い空間や開放的な吹抜けのオープン階段を大胆に導入。キッチンに立つ奥様からの視線を中心にした、明るいカフェのようなデザインに仕上げられている。暖房のために空間づくりの楽しさを犠牲にするという考えは、ここにはない。ここをはじめ、同社のモデルハウスでは、寒さが厳しい12〜3月の週末に、家族での宿泊体験が可能。実際に体験した家族は、アンケートにこんな感想を残している。「いつも足が冷えて辛い思いをしていましたが、宿泊中は夜でも裸足で過ごせてとても快適でした」1歳の子供が床を這うので、火傷の心配のない低温水床暖房は子育てにピッタリです。体験ができるのは冬だけだが、家全体がムラなく暖かい幸福感を、一度試してみればいかがだろうか。



家族が集まるダイニングを家の中心に据え、手前のリビングと奥のキッチンに空間が広がる。冬は全面床暖房でどこにいても暖かい。



キッチンへのおすすめ

キッチンの前に小さなテーブルを置いたカフェスペース。リビングやダイニングとは別に、友人とキッチン越しに話せるこんな気軽な場所があるとうれしい。



高い断熱性能と、床・壁・天井が一体となった2×4工法が、間取りの自由度を高める。

暖かさだけじゃない。
開放的で自由な
空間づくりを可能にする
全室床暖房



オトンへのおすすめ

正面の壁に大型のテレビを掛ければ、ホームシアターになる夢のベッドルーム。壁の奥には左右どちらからも入れるウォークインクローゼットがある。



O.tone Vol.92

定価 680yen (本体630円)
2016年6月15日発行

特集1
「気になるクラフトビール」

特集2
「生涯青春! 大人の運動部」

特別企画
「家のカタチ2016」

設計×施工

株式会社協栄ハウス
千歳市朝日町3丁目5-1
☎ 0120-42-8812
<http://www.kyoueihouse.jp>